永生病院だより

# ゆるみき

KEIRYOKAI

- 理事長のあいさつ
- 第2回院内学会を終えて・・・
- 皮膚科紹介
- ご報告:永生病院恒例の夏祭り
- リハビリテーションの理念と
  リハビリテーション科医の役割
- 仕事と家庭の両立サポート宣言
- 編集後記


vol. 9

## 病院理念

信頼される医療･保健･福祉を提供し、地域の健康増進に貢献する

## 基本方針

良質な医療を提供するため、心と技術を磨く努力を惜しみません
患者の権利、尊厳、安全を重視した医療を提供いたします
医療、福祉と連携を持ち、急性期医療から在宅医療まで、全員参加で取り組みます

## ●理事長のあいさつ

昨年より一段と気温が高い夏です。「猛暑」ということばが毎日のように聞かれ、象頭山の樹木は夏のぎらぎらした日差しを浴びて緑色が深くなっています。香川県の水不足は、幸いにも早々に発生した大型台風によって解消されほっとしています。しかし、新潟県では2年前の大地震に続いて、再び震度6の大地震が発生し言葉もありません。不自由な避難所生活を強いられているお年寄りの姿をテレビでみると、本当にお気の毒な限りです。当たり前の生活・仕事が出来ることのありがたさをあらためて感じます。「文句なんて言っていられません･･･」とも思います。こういう機会にこそ、医療機関での防災対策の重要性を再認識し、ふだん行っている避難訓練について、「本当に災害が起きたら･･･」と想定して見直す必要があると思います。防災対策委員会を中心に再度気を引き締めて活動し、院内の意識を高めてまいります。

今年、第2回目の当法人院内学会を7月20日、24日、25日、27日、30日、31日の6日間行いました。全部署全職員がどれかの研究発表に参加のうえ発表します。今年は64演題の発表があり、まだ内容としては未熟ではありますが、昨年より活発な質疑応答が行われ、楽しんで行っている雰囲気が感じられました。ひいき目に見てレベルアップしたと思います。普段の業務、委員会活動などのなかから、テーマをみつけて取り組み、出てきた結果を素直に受けとめてまとめ上げていくというものです。「毎日の仕事」を、単なる作業に終わらせず、役割をもった意義のあるものにし、自分達が「やりがい・生きがい」を感じるものにしていくには、このような取り組みが大切と考え昨年よりすすめています。そして、出てきた結果を少しでも「医療の現場」で生かし、実践していきたいと考えます。その結果として、患者さまに喜んでいただくことが出来、私たちもやりがいを感じられれば、これ以上のことはないと考えます。

当法人が掲げた理念・基本方針に沿ったものを求めて、共に成長しつつ、地域のみなさまに医療サービスを提供していきたいと思っております。

平成19年8月31日　理事長　　森　伊津子

## ●第二回院内学会を終えて…

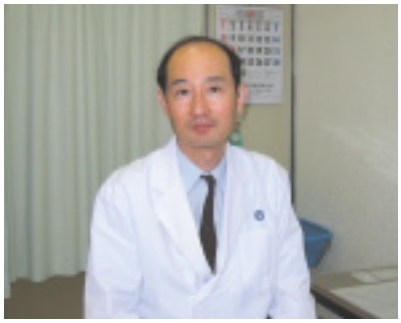
各部署ごとに研究テーマを決め、その取り組み内容を発表するという院内の学会が行われました。今年は2回目ということで、テーマの選び方や着眼点、また、発表の仕方など昨年と比べると余裕すら感じられ、内容もわかりやすくなったように思います。今年も、優秀賞3組が選ばれ、賞状と賞金が理事長より授与されました。

この院内学会を通して、自分たちの仕事を見直す良い機会になり、他部署での取り組みを理解することで全スタッフがさらに質の高い医療サービスをめざし、目的を持って日々の業務にあたることの重要性を再確認できました。今後も全スタッフが患者様のことを第一と考えた医療サービスを提供していきます。

## ●皮膚科紹介

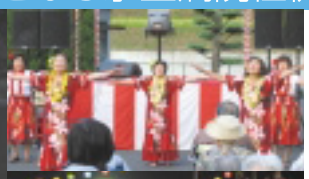
**永生病院皮膚科　米田耕造**

皮膚はその人の人生や生活様式を映す鏡のように環境の変化を受けて変化します。皆さんは臓器、器官というと、膵臓とか腎臓のような内臓を想像されると思います。でも皮膚も一つの臓器、器官です。皮膚は私たちの体を包み、環境から守る働きをする大切な防御器官です。そして人体で最大の臓器です。皮膚はからだ全体を優しく包み込んで、内部の生命活動が環境の影響によって乱されることなく、いつも一定条件で行われていくように保つ働きをします。皮膚の緻密な防御機構は皮膚表面を薄くおおうアカの層である角層です。角層より下の生きている皮膚組織は重要な免疫器官です。湿疹、じんましんなど、多くの日常的な皮膚の病気は、この免疫の調節異常によります。また皮膚の色も大切な防御機能を果たしています。生物の生存に必須である太陽の光には強い殺傷能力を持つ紫外線も混じっています。その紫外線から皮膚自身を守るため皮膚では色が作られます。



この重要な臓器である皮膚に起こるすべての病気を対象とする科が皮膚科です。湿疹、じんましん、水虫、手荒れ、日焼け、イボ、アトピー性皮膚炎、薬疹、抜け毛など多くの病気があります。また当科では、このような病気の治療だけではなく、シミやシワに対する相談も受け付けています。皮膚に関することは（躊躇されず）何でも気軽にご相談下さい。

## ●8月18日（土）、今年で13回目となる永生病院恒例の夏祭りが開催されました。



地域の方々に楽しんでいただける夏祭りを目指して、今年は勇壮な忠八太鼓に加え、フラダンス・フラメンコで華やかさを増したり、健康相談コーナーも設けました。

色々な屋台やゲーム・花火など、お子様からご高齢の方までたくさんの方に喜んでいただき、私達職員もとても楽しいひと時を過ごすことができました。

## ●リハビリテーションの理念とリハビリテーション科医の役割

**リハビリテーション科　西川正史**

リハビリテーション（以下リハビリ）について全体像を捉えて理解している人は決して多くはありません。2000年度からは介護保険制度が発足し、リハビリの意義はますます誤解される傾向にあります。そこで今回は、リハビリの理念とリハビリ科医の役割について述べたいと思います。

リハビリの意味する内容が正しく認識されていない最大の原因は“rehabilitation”という単語が日本語に訳されずカタカナで表記されていることにあります。“rehabilitation”は接頭辞の“re”と“habilitation”が組み合わさって成り立っており、これらの用語を繋ぎ合わせて考えると解釈しやすい。すなわち、リハビリとは「もう一度能力を回復して社会生活に適合するための過程」ということになります。言い換えれば「社会復帰・社会参加への手助け」ということです。心身に障害を持つ人々が社会復帰するためには身体の問題に対処するだけでなく、心理的にも、社会的にも、職業的にも経済的にも配慮が必要です。したがって、リハビリは医学・医療の分野にとどまるだけではなく、社会福祉・保健に及ぶ広い概念を含んでいます。

リハビリを機能訓練という医療の一部分だけとして捉えると、間違った方向に導かれます。社会復帰あるいは社会参加という明確な目標を常に意識しつつ遂行する過程でなければなりません。また、療法士による機能訓練のみが重要であるわけではなく、入院患者の場合には病棟での日々の生活内容も機能・能力の改善に大きく関わっており、リハビリ看護・家族への介助指導も重要な一分野なのです。医師一人では心臓手術などが出来ないことと同様で、真のリハビリを推し進めるには種々のコメディカルによるチームおよび家族が一丸となって働きかけることが不可欠です。

そしてさらに今後の大きな課題として挙げられることは、全ての障害者にノーマライゼーション（障害者や高齢者にも健常者と同様に、便利で快適な社会生活を送る権利を与えることが本来あるべき姿であるという思想）の考え方が約束できる地域社会作りを目指すことです。特に21世紀にはいって、わが国をはじめとする先進国は少子高齢化社会を迎えるようになりました。多くの高齢者が寝たきりとなり、低いQOL（生活の質）に留まるという悲惨な社会に陥らないように英知を結集せねばなりません。

次にリハビリ科医の役割に関して簡単に述べたいと思います。読んで字の如く、リハビリ科医とはリハビリ医学・医療に精通している医師です。内科や外科の医師の診療内容は理解しやすいのですが、リハビリ科医が何をしているのかを答えられる人は少ないのが現実です。今、この文章を読んでいるなかにも整形外科医と勘違いしている人も多いのではないでしょうか。

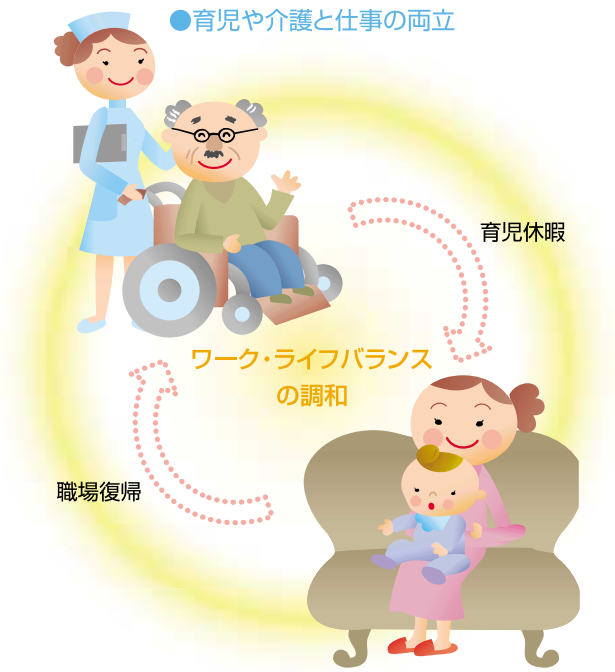
リハビリ科医の役割には、①疾病・障害の診断、②適切なリハビリ医療（訓練処方や装具処方）の提供、③リハビリチームのリーダー、④一般的な内科的管理、⑤訓練時のリスク管理、⑥障害受容のマネージメントなどが挙げられます。

リハビリの必要な患者様の殆どは他科で診断がついて紹介されます。しかしリハビリ科を訪れる全ての患者様の確定診断が得られているとは限らず、リハビリ科医が診断することも稀ではありません。そのため、よく扱う疾患のエックス線、CT、MRIなどの画像診断や電気生理学的診断（筋電図検査）を行える必要があります。リハビリ医療では診断名と病状から機能面の帰結を予測しリハビリのゴール設定を行うため、確定診断は重要です。疾患によっては合併症を起こす可能性もあり、訓練時のリスク管理も異なってきます。その他嚥下障害の診断と評価のため嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査も行います。

そして疾患によって生じる麻痺や筋力低下などの身体機能の障害や、記憶・注意力・言語機能などの高次脳機能障害をもった人に対して、リハビリ科医は疾患や障害の診断を行い、機能回復に加えADLの自立または介助量軽減を目的に訓練メニューを立てます。その際、年齢・病前の社会生活・家屋や家族環境・転帰先などは個々に異なるため、同じ障害を持った人であっても目標設定が異なります。また訓練を円滑に進めるために装具が必要と判断されれば義肢・装具を処方します。

以上リハビリは医学・医療の分野に留まるだけでなく、社会福祉・保健に及ぶ広い概念を含んでいることは理解していただけたことと思います。つまり一人の患者に対して多くの専門職が関わることになります。各スタッフが互いに情報を共有し同じ目標に向かってアプローチすることは当然のこと、各スタッフの専門分野についての知識と技術を最大限に活かすため、リハビリ科医は責任をもって意見をまとめ治療方針を決定するチームリーダー的存在であるとも考えます。

## ●仕事と家庭の両立サポート宣言




少子化の進展による労働力不足が懸念される中、優秀な人材の確保と育成は、これからの企業の成長にとって不可欠です。

永生病院は地域に密着した医療機関として、良質な医療・保健・福祉を提供していくため、常に優秀な人材の確保・育成に努めてまいりました。

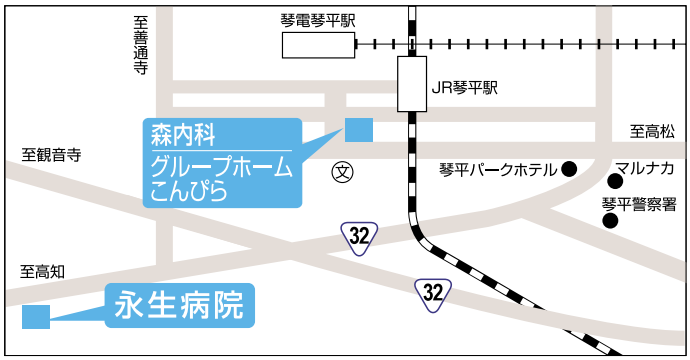
優秀な人材の確保・育成を行っていくには、全職員にとって、仕事と家庭の両立、とりわけ育児や介護と仕事の両立が図られることが大切です。すなわち「ワーク・ライフバランス重視の職場」であることが最重要と考えます。職員の満足度の向上は、より良質な医療サービスを提供できることになり、患者満足度につながります。

当院では、すでに職員のための院内託児所の設置、育児休業の職場復帰に備えての研修の実施等、仕事と家庭の両立支援に取り組んでまいりました。今後さらに「育児や介護と仕事の両立があたりまえの職場風土」の完成を目指して邁進していくことを、ここに宣言します。

医療法人圭良会永生病院
理事長　森 伊津子

### 【編集後記】

院内学会･夏祭りと永生病院全職員の情熱をぶつけた
「ゆるぬき第9号」を発刊することができました。
猛暑の夏も吹き飛ばす元気な永生病院を
これからもご紹介していきますので、
今後とも宜しくお願いいたします。



永生病院　130床（一般病棟 40床・療養型病棟 90床）

### 医療法人圭良会

| | |
|---|---|
| ●永生病院 | 香川県仲多度郡まんのう町買田221-3<br>Tel 0877-73-3300 |
| ●いこいの森（訪問看護ステーション・訪問介護） | Tel 0877-73-3700 |
| ●いこいの家（通所介護） | Tel 0877-73-3718 |
| ●いこいの郷（居宅介護支援事業所・福祉用具貸与事業所） | Tel 0877-73-3655 |
| ●森内科 | 香川県仲多度郡琴平町167<br>Tel 0877-73-4188 |
| ●グループホームこんぴら（認知症高齢者グループホーム） | 香川県仲多度郡琴平町167<br>Tel 0877-73-0811 |

永生病院広報誌「ゆるぬき」第9号
発行元：医療法人圭良会 永生病院
編集者：医療サービス改善委員会
住所:〒769-0311仲多度郡まんのう町買田221-3
TEL:0877-73-3300
FAX:0877-73-3202
永生病院のホームページ http://www.eisei-hp.or.jp/
eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp
発行年月日:平成19年9月1日